

山梨大学の現状と将来ビジョン

山梨大学教育学部附属中学校同窓会 令和5年8月12日

「地域の中核、世界の人材」

山梨大学は、豊かな教養と高い倫理性を持ち、広い教養と深い専門性を身につけた学生・教職員を育てることにより、知と技術における「地域の中核」となると同時に世界の平和と人類の福祉に貢献できる「世界の人材」を養成することを目標としています。



要吾山から望む甲府盆地

学長就任

学長就任記者会見（令和5年4月4日）



本学は、第4期中期目標計画（令和4～9年度）において、『真に地域の活性化を担い世界で活躍できる大学人を育成する』ことを基本的な目標としており、目標達成のため、以下の4つのビジョンを掲げた。

- ①教育改革の推進
- ②研究支援体制の強化
- ③地域連携等の強化
- ④経営基盤の強化、改革の推進等

今後はさらに諸活動に取り組み、実りある成果をあげることによって、『持続的に発展しつつ特色ある魅力に溢れた大学』を創り上げ、山梨県、ひいては我が国の発展につなげていく。

任期
2023年4月～2027年3月（4年間）

略歴
1978年 山梨県立甲府第一高等学校卒業
1982年 山梨大学教育学部卒業
1986年 筑波大学大学院体育研究科修士
2011年 山梨大学教育学部教授
2015年 山梨大学教育学部長・大学院教育学研究科長
2021年 山梨大学理事（教学・国際交流担当）・副学長
2023年 山梨大学学長

専門分野
教育学、発達発達学

（歴代学長）

任期	氏名
2023年（令和5年）4月～ 2027年（令和9年）3月	中村 和彦
2015年（平成27年）4月～ 2023年（令和5年）3月	島田 眞諦
2009年（平成21年）4月～ 2015年（平成27年）3月	前田 秀一郎
2004年（平成16年）10月～ 2009年（平成21年）3月	貫井 英明
2002年（平成14年）10月～ 2004年（平成16年）9月	吉田 洋二

学長ビジョン

1. 教育改革の推進

山梨県立大学と共同設立し、全国で初めて大学等連携推進法人の認定を受けた「一般社団法人大学アライアンスやまなし」を活用し、向大学との教育連携等を強化して学生の選択肢の拡大を図ります。また、学部本位の教育を目指して、絶えず教育の質の改善に取り組み、入学から卒業後までの一貫した教育やDXを活用した学生支援を実現します。さらに、グローバル化に向けた諸施策も進めます。

2. 研究支援体制の強化

グリーンエネルギー、先端脳科学、発生工学、ワインといった強み・特色分野の研究や融合研究を重点的に支援し、グローバル展開を推進します。これに加え、新たな強み分野の開拓・強化を進めます。また、全学的な研究力の底上げに向け、制度面の整備や研究時間の確保に向けた対策などを強化していきます。

3. 地域連携等の強化

コロナや地域医療、少子化など地域が直面する課題に対し、多様なネットワークの活用や新たな連携体制等を構築して取組を加速します。また、地域ニーズを十分に踏まえた人材の育成機能を強化し、地域の活性化を促進していきます。

4. 経営基盤の強化、改革の推進等

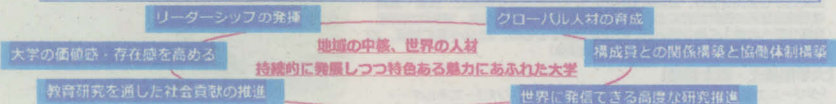
財源確保は非常に重要となるため、島田前学長が行った徹底した経費削減等の財源確保策を継承・発展させつつ、外部資金の獲得に向けた取組等の強化や、附属病院経営への関与を深めています。また、各種改革を押し進めるため、教員だけでなく事務職員とも連携を強めて教職協働を推進していきます。

ビジョン実現に向けて

対話（コミュニケーション）を重視し相成り十分な協力関係を構築する
自ら先頭に立ちつつ、対話を重視し、構成員に寄り添い、意見を汲み入れ、理解を得ながら進める。

島田前学長の取組を継承とし、改革精神を持ちつつ継承・発展させていく
絶えざる改革と機能強化を推進する。（教育改革の推進、研究支援体制・地域連携・経営基盤を強化）

地域の中核として地域の期待に応え、地域と一体となって発展していく役割を担う
地域人材、グローバル人材を育成し、山梨県をはじめとする地域の活性化及び国際貢献を推進する。



山梨大学 - 沿革 -

沿革

明治8年 山梨県師範学校

大正10年（1921年） 山梨県立第一中学校教員養成所

大正13年（1924年） 山梨高等工業学校

昭和24年（1949年） 旧・山梨大学

昭和53年（1978年） 山梨医科大学

平成14年（2002年） 全国初の国立大学の統合
山梨大学

平成16年（2004年） 国立大学法人化
国立大学法人 山梨大学

甲府キャンパス

医学部キャンパス

学部	3,788人
教育学部(1課程)	534
医学部(2学科)	994
工学部(7学科)	1,603
生命環境学部(4学科)	657

大学院	925人
教育学研究科(教職大学院)	70
医工農学総合教育部(8専攻)	847
特別支援教育特別専攻科	8

令和5年5月1日現在

- 学生数 : 4,713人
- 男女割合: 男性 約 70%、女性 約 30%
- 出身割合: 県内 約 35%、県外 約 65%
- 教職員数: 797人（うち特任教員248人）

近年の動き

平成24年（2012年） 生命環境学部設置により4学部となる

平成28年（2016年） 大村智博士がノーベル医学・生理学賞を受賞

令和3年（2021年） (一社)大学アライアンスやまなし ⇒ 全国初の「大学等連携推進法人」認定

令和5年（2024年） 中村和彦学長就任

学部紹介

教育学部

21世紀を生きる人間の発達と学習を実践的に支え、人間性と教育文化への洞察力を備えた教育人を養成

教育目標 人間の生涯発達を視野に収め、教育に対する情熱と課題を解決する高い実践力を備え、豊かな人間生活の構築に寄与する教育人の養成を目指す。

■学校教育課程

- ・幼小発達教育コース・障害児教育コース
- ・高学教育コース・生活社会教育コース
- ・科学教育コース・芸術身体教育コース
- ・山梨県小学校教員養成特別教育プログラム



工学部

最先端の技術と研究を展開し世界へ羽ばたく技術者を育成

教育目標 基礎的・専門的学力、論理的な表現力やコミュニケーション能力を修得するとともに、工学技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に負っている責任を理解し、科学的知見と技術を統合して社会的課題を解決する能力、すなわちエンジニアリングデザイン能力を身につけたグローバルに活躍できる人材を養成する。

- 機械工学科 ■電気電子工学科
- 土木環境工学科 ■応用化学科
- 先端材料理工学科
- メカトロニクス工学科
- コンピュータ理工学科



医学部

地域医療や国際医療に貢献できる医療人や国際的に活躍できる優れた研究者を養成

教育目標 病める人の苦痛を自らの苦痛と感ずることができ、生涯にわたって医学的知識、技術の習得に努め、地域社会・国際社会の保健医療・福祉に貢献する人材及び疾患の原因解明や治療法の開発に寄与できる研究者の養成を目指す。

- 医学科
基礎医学/臨床基礎医学/
社会医学/臨床医学
- 看護学科
看護基礎科目/看護専門科目



生命環境学部

自然環境と人間社会の共生を科学し、人類の未来の担い手を育成

教育目標 生命科学・食物生産・環境科学・社会科学に関する基礎教育により、広範な知識を統合し、問題を発見し解決する能力を身につけ、自然と社会の共生の観点から持続可能な地域社会を実現できる人材の養成を目指す。

- 生命工学科
- 地域食物科学科
- 環境科学科
- 地域社会システム学科



5

特色ある研究 (センター・附属施設)

ワイン科学研究	水素・燃料電池/ クリーンエネルギー研究	クリア・免疫学研究	発酵工学研究
画像流域環境研究	地域防災・マネジメント研究	クリスタル科学研究	有毛微生物研究

学部附属施設

教育学部附属学校園 幼稚園、小学校、 中学校、特別支援学校	医学部附属病院	工学部附属 ものづくり教育実践センター	生命環境学部附属農場
-------------------------------------	---------	------------------------	------------

7

大学院・専攻科紹介

大学院 医工農学総合教育部 修士課程

生命医科学専攻

母体の医学や生命科学研究を担う研究者・技術者および社会福祉、健康科学分野の研究応用を医療機関や保健医療行政の現場において実践できる高度専門職業人の育成を目的とします。

看護学専攻

質の高い看護を提供するために求められる科学的知識と技術を有する看護専門職の育成を理念としています。修士課程修了後は、医療・医療・福祉や教育など幅広い領域で活躍しています。

工学専攻

専門知識及び開発能力、問題発見・解決能力、国際的コミュニケーション能力を修得し、優れた技術者・研究者および高度専門職業人として社会に貢献できる人材を育成します。

生命環境学専攻

自然科学と社会科学の文理融合的なアプローチで、人間にとって最も普遍的で重要な「食と健康」「生命と環境」に関わる課題で多様な課題の解決に貢献できる人材を育成します。

大学院 教育学研究科 (教職大学院の課程)

子どもを取りまく社会状況が大きく変化し続ける現在、多様化する教育問題に対処できる実践的な対応力と専門的な力量を持ち、あわせて地域・文化の向上に寄与できる教育者・研究者を育成します。

大学院 医工農学総合教育部 博士課程

医学専攻 (4年)

高い倫理観や工農学分野の学際的知識及び医学・医療の分野に関する優れた研究能力と豊富な専門知識を身につけ、基礎・臨床技術開発、医療関連事業や公共健康政策の推進、地域医療への貢献等に寄与できる人材を育成します。

ヒューマンヘルスケア学専攻 (3年)

人間を身体・心理・社会的側面から捉え、幅広い世代の健康課題の解決および健康生活の維持・促進を支援することを目的とするヒューマンヘルスケア学にふさわしい、看護学の発展に寄与する人材の育成を理念としています。

工学専攻 (3年)

医工農の分野を超えた研究開発・教育体制により、産業や工業技術が身体や自然に与える影響に関する洞察力や倫理性を兼ね備えた、企業や教育研究機関において開拓の冲撃を担える能力と完成力を有する人材を育成します。

統合応用生命科学専攻 (3年)

医工農の各分野の知識と技術を「統合・応用」して技術革新を行い、人類にとって最も普遍的な価値をもつ「健康」に関する課題に対して普遍的な解決法を見出し、社会の発展と人類の福祉に貢献する高度専門職業人・研究者を育成します。

特別支援教育特別専攻科

障害児教育専攻

すでに幼・小・中・高校の教員普通免許を所持する方を対象に、障害のある子どもの教育を担当しうる能力を1年間養成するとともに、特別支援教育担当教員のための現職教育の場を提供しています。

6

特色ある研究 -水素・燃料電池/クリーンエネルギー-

水素・燃料電池ナノ材料研究センター Hydrogen and Fuel Cell Nanomaterials Center University of Yamaguchi
クリーンエネルギー研究センター Clean Energy Research, University of Yamaguchi

1. 組織概要

1978年：文部省により「燃料電池実験施設」(現・クリーンエネルギー研究センター)設置
2008年：経産省(NEDO)事業により「燃料電池ナノ材料研究センター」を山梨県の全面的支援により設置
2020年：NEDO事業に4事業採択、2030年から2040年の実績を目指す

2. 研究概要

- ①燃料電池の高度化に向けた新材料の研究開発
- ②大学の技術シーズを活用した地域企業支援 (2015年~)
水素・燃料電池が地域社会の生活に溶け込み、あらゆる場面で活用される社会を山梨から実現するため、これまでの成果を生かした活動を展開。
- ③やまなし水素・燃料電池ネットワーク協議会
本学の研究を核として、山梨県の産業や地域の特色を活かし、山梨県に燃料電池関連産業の集積と育成を図る。山梨県の構想する「燃料電池バレー」を実現すべく、やまなし産業支援機構、山梨大学の3者で設立。
- ④新社団法人「FCyFINE PLUS」設立 (2021年)
複数の企業・団体により多くの顕在化した課題を解決し、水素・燃料電池分野の社会実装づくりをより民間に近い部門で推進していくため設立。
- ⑤地域企業の新産業導入技術支援
文部科学省地域イノベーション事業(FCyFINE) 参加企業の技術支援を継続。

3. 教育

【水素・燃料電池産業技術人材養成講座】
山梨県から委託を受け、県内産業界の社会人技術者を対象に、水素・燃料電池関連分野の設計開発に必要な知識を習得する機会を提供。燃料電池関連産業分野への参入に取り組みやすい環境を整備するもの、2016年度に開設、22年度まで7年間で修了者：合計137人(58団体)

【大学院修士・博士課程】
「クリーンエネルギー変換工学特別教育プログラム」「パワーエネルギー・プロフェッショナル養成プログラム(早稲田大学など12大学と連携)

山梨県 2015年6月設立!

やまなし水素・燃料電池ネットワーク協議会

水素自動車・ミライ

★論文実績
(H29~R4) Web of science 収録された17件の学術論文
・「クリーンエネルギー」掲載148稿
国際共著論文割合=20%
・燃料電池：総計101稿
Top10%論文割合=10%
※ 研究の国際性とハイインパクト論文を生産し、海外からの注目を集めている。

8

水素エネルギー社会の構築を目指して/山梨地域・産学官連携

菅内閣総理大臣は2020年10月26日の所信表明演説において、我が国が2050年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言し、我が国のエネルギー供給の安定化、地球温暖化問題の解決に向け、燃料電池を始めとするクリーンエネルギーに関する研究を推進する旨を述べられた。

山梨大学 燃料電池研究で最先進をいく3つのセンター

グリーンエネルギー研究センター
(燃料電池/水素エネルギー変換研究)
1978年 国内初め初めて燃料電池を研究目的とした実験棟を竣工

水素・燃料電池ナノ材料研究センター
(燃料電池の触媒・電解質材料研究)
2008年 NEDO事業により無鉛 山梨県から県有権を無償貸与

山梨大学：燃料電池の研究開発、産業展開、人材育成

山梨県 クリーンエネルギーの活用拡大と産業振興

グリーン水素サプライチェーンの構築
製造・貯蔵・輸送・利用の社会実装試験を開始
県産、県消費の循環型「水素」を10月以降に県産型で供給し、活用

山梨県：水素の製造、企業参入、研究機関連携

産学官連携 産学官連携により、水素社会の実現を進める

中まなほ燃料電池エコパレシステム

山梨県内外 約30社に及ぶ企業・機関との連携を実現。新社団法人 FCFP/FINE（事務局は山梨大学）を中心に、水素と燃料電池による脱炭素社会を切り開く。

水素・燃料電池の研究開発拠点（金谷山に集結）

水素社会の実現に向けた世界的研究拠点

- 1 山梨大 水素・燃料電池/材料研究センター
- 2 世界最高水準の研究開発拠点
- 3 山梨県 産業振興センター
- 4 燃料電池の性能評価 (NEDO事業)
- 5 山梨大 燃料電池研究センター
- 6 太陽光から水素を生み出す実証研究
- 7 山梨大 水素エネルギー研究センター
- 8 水素エネルギーの活用実証研究

※水素社会はエネルギーシステム研究開発の中心
※多様なジャンルの研究者によるオープンイノベーションの集約的連携 (現状達成予定)

特色ある研究 — 発生工学 —

発生工学研究センター — ADVANCED BIOTECHNOLOGY CENTER

1. 組織概要 2014年に「発生工学研究センター」を設置
先端的医工産融合ライフサイエンス研究を推進し、世界トップレベルの発生工学的技術を身につけた優れた研究者を養成することを目的として体制を整備

2. 研究概要

- 凍結乾燥（フリーズドライ）精子**
1998年フリーズドライにして保存した精子から健康な産仔を作ることによって初めて成功。
- フリーズドライ精子の極限環境耐性と長期保存**
精子をフリーズドライ化すると高温、低温、放射線などに対して強い耐性を獲得し、机の引き出しの中でも長期保存可能なことを発見。また、フリーズドライ精子をハガキに張り付けて普通郵便で送ることも成功。
- 16年間冷凍庫で保存されていたマウスの死体からクローンマウスの作出に成功**
-30℃の冷凍庫で16年間もの間、凍った状態で保存されていたマウスの凍死死体からクローンマウスを作ることによって初めて成功。
- 体細胞クローン動物**
1998年に体細胞クローンマウスの作出に初めて成功し、(Natureの表紙を飾る)、これ以降マウスを使ったクローンの研究が世界中で行われるようになった。
- 国際宇宙ステーションでフリーズドライ精子を6年間保存**
国際宇宙ステーション (ISS) でフリーズドライ精子を最長6年間保存し、精子に対する宇宙放射線の影響を調べる研究を実施。
- 遺伝資源の宇宙保存**
細胞のフリーズドライ保存技術を用いて、月で保存すれば、地球規模の大量災害が起こっても影響を受けないため、地球の遺伝資源を永久に保存できる。



3. 教育

「胚培養士を育成する特別教育プログラム」
令和4年度に、不妊治療において顕微授精や培養を行う胚培養士を要請する「高度生殖技術センター」を設立し、令和5年度から、最長6年間の胚培養士を育成する特別教育プログラムを開始。

★論文実績 (H25~H29, Web of science に収録されたIP付の学術論文)
発生工学 総計 33篇
TOP10%論文割合 21.2%
※山梨大学の発生工学分野の研究は、TOP10%論文割合が21%と極めて高い水準にある。これは第5期科学技術基本計画で掲げられている目標値 (TOP10%論文割合: 10%) を大きく超え、世界的に注目される論文を生産していることが数値としても示れている。

特色ある研究 — ワイン科学 —

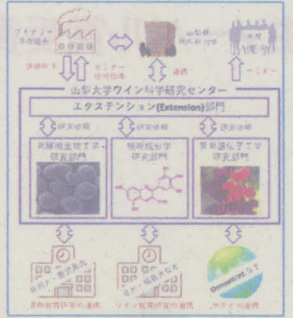
ワイン科学研究センター

The Institute of Enology and Viticulture University of Yamanashi

1. 組織概要 1947年山梨工科大学専門学校附属「醸造研究所」設立。石橋湛山 (その後総理大臣) 5政府の寄名人が尽力
2000年山梨大学工学部附属「ワイン科学研究センター」設置

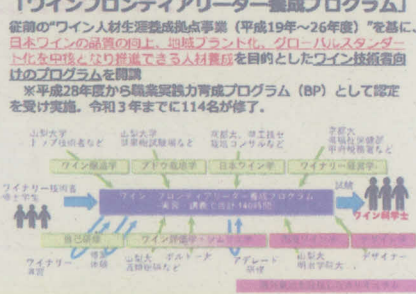
2. 研究概要

- 発酵微生物工学研究部門
自然界からの発酵微生物の獲得・利用
- 機能成分学研究部門
ブドウ・ワイン成分の分析・製造への応用
- 異臭遺伝子工学研究部門
悪臭性の付与とブドウ栽培研究
- エクステンション部門
技術者教育・依頼分析



3. 教育

「ワインフロンティアリーダー養成プログラム」
従前の「ワイン人材生産養成拠点事業 (平成19年~26年度)」を基に、日本ワインの品質の向上、地域ブランド化、クローバルスタンダード化を中核となり推進して、人材養成を目的としたワイン技術者向けのプログラムを開発
※平成28年度から職業実践力育成プログラム (BP) として認定を受け実施。令和3年までに114名が修了。



★論文実績 総計 60篇 (H29~H4にWeb of scienceに収録されたIP付の学術論文)
デパートの人気とテレビ・新聞等でもよく取り上げられ、国内屈指のワイン研究施設で先端研究を実施。世界的にも甲州ワインの品質が認められ、海外の研究機関からも注目を集めるとともに、海外研究機関と連携した研究が数人な分野でもある。

特色ある研究 — グリア・免疫学研究 —

山梨GLIAセンター Yamanashi GLIA Center

1. 組織概要 2019年10月 学際的脳-免疫研究センター設置
2021年4月 山梨GLIAセンター設置
脳機能のメカニズム、脳疾患や精神・神経疾患の病因、病態進行過程におけるグリアの役割などの解明に向け、従来の概念に委ねられない新しい視点から学際的な共同プロジェクトを展開しています。

2. 研究概要

- グリア細胞による脳の生理機能及び病態生理機能メカニズムの解明**
グリア細胞が、どのように神経細胞をコントロールしているのか、またその異常によってどのような脳の疾患が起こるのか、そのメカニズムを解明。グリアを標的とした治療法の開発も視野に入れた研究を実施。
- アレルギーと脳の関係**
ドーパミン報酬系とアレルギーの研究結果から、脳のドーパミン報酬系が活性化によりアレルギー反応が抑制される研究などを実施。



★論文実績 (H29~H4にWeb of scienceに収録されたIP付の学術論文)
脳科学 総計 260篇
TOP10%論文割合 11.5% 55、TOP1%論文 4篇
※山梨大学の脳科学分野の研究は、TOP10%論文割合が11.5%と高い水準にある。このうち、TOP1%論文が4篇あり、世界的にも先進的な研究成果を発表していることが数値として挙げられる。

【先端脳科学特別教育プログラム — 次世代の研究者育成プログラム —】
世界トップレベルの高度な発生工学関連技術及び最新の知識を習得し、脳機能・分子イメージングの技術と研究力を備えた研究者、社会医学と教育を軸にした発達脳科学の知識と実践力を備えた研究者・教育者を育成。

工学部改組（令和6年4月）

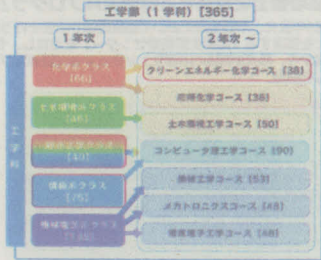
概要

これまで工学部は、「未来世代を思いやるエンジニアリング教育」をキャッチフレーズに掲げ、今後の社会における変革を技術の観点から牽引できる人材を育成してきました。

令和6年度に開設予定の新しい工学部では、価値観の多様化やエネルギー問題など現代社会が抱える諸問題へ対応するために、主として、SDGs、地方創生、および Society 5.0 の実現に貢献できる人材育成を強化します。

そのために、主体的で多様な学びを支援する7学科から1学科複数コースへの再編、1年後に専門分野の選択が可能な総合工学クラスの開設、各専門分野においてデータ駆動型研究開発を可能とする数理・データサイエンス・AI 関連科目の強化、大学院に進学後の多様な研究活動を支援する大学院授業科目の先取り、などの新たな仕組みを設けます。

新・工学部



特色

- 7学科を1学科複数コースに再編
 - ・分野間の垣根を低くし、進路選択が柔軟となるよう変更
 - ・新コースの設置により進路選択の幅が拡大
 - ・情報分野（コンピュータ理工学コース）の専任教員を大幅増
- クリーンエネルギー化学コースを新設
 - ・化学の力でエネルギー問題を解決できる人材を育成
 - ・山梨大学が有するクリーンエネルギー分野における国内有数の研究実績（燃料電池やエネルギー変換など）を活用し、新たなコースを設置
- 総合工学クラスを新設
 - ・入学後に進む分野を決定したい、進みたい分野があるが入学後に適性を見極めたい、幅広い工学の知識や技術を学んでから専門の分野に進みたい、というニーズに対応したクラスを設置（出願時に「総合工学枠」を選択）
 - ・総合工学クラス出身者を中心に全ての工学部生が履修可能な「工学の社会実践教育プログラム」を実施

新体制

- 一括入試の導入による専任教員の専任化
 - ・成績上位者からコース希望を助産して合格者を決定
 - ・総定員（365人）の枠内で各コースの専任教員を二重等を踏まえて弾力的に配定
- 学校推薦型選抜Ⅰや女子枠の導入
 - ・調査書・小論文・面接等で総合評価（共通テスト不要）
 - ・女子枠と一般枠の併設が可能
- 大学入学共通テストで「生物」が選択可能
 - ・総合選抜Ⅱ、一般選抜（前期・後期）において、全てのコース等で「生物」が選択可能に

新入試

- 工学基礎教育・デジタル教育の強化
 - ・コース・学科の枠を超えた、幅広い専門性を有する教員による授業を実施
 - ・数理・DS・AI 科目や PBL 科目等の充実化
- 1年次はクラスに所属、2年次から専門分野ごとのコースに所属
 - ・年次が進むにつれて専門を細分化
- 既コース制度等による進路選択の柔軟化
 - ・2年次からのコース配属時に条件を満たせば他コースへの変更が可能、3年次進級時にも既コースが可能
- 特別教育プログラム（特P）の実施
 - ・希望者は3年次進級時に専門性の高い特Pを履修可能（大学院修士課程までの一貫教育）

新教育

令和6年（2024年）山梨大学工学部創立100周年

創立100周年 記念事業

工学部のあゆみ

- 大正13年（1924年） 国立山梨高等工業学校として発足
- 昭和19年（1944年） 国立山梨工業専門学校に改称
- 昭和24年（1949年） 国立大学山梨大学工学部として4学科で発足
- 平成16年（2004年） 国立大学法人山梨大学工学部発足

令和6年（2024年）

国立大学法人山梨大学工学部工学部創立100周年

記念事業（予定）

施設設備事業

- ・東キャンパス中央東門改修（周辺環境整備）
- ・100周年記念ホールの整備（A2-21教室改修）
- ・東キャンパス南門の改修

イベント事業

- ・100周年記念WEBサイトの整備
- ・カウントダウンイベント（各種講演会・セミナー）

100周年記念式典の開催

- ・記念講演
- ・記念セレモニー（令和6年秋頃予定）



↑85周年時に設置した時計台

山梨大学の動向

2015(H27)10月 大村智先生ノーベル賞受賞

学生には夢を、研究者には希望を与えて下さった。山梨大学は世界から認められた！



2019(R1) 大学アライアンスやまなし

全国発の大学等連携推進法人に認定。連携による多様な教育機会を拡大を目指す！



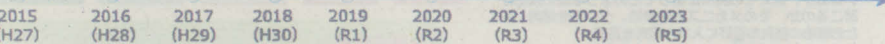
2020(R2) 新型コロナウイルス対応

病院を挙げて対応。オリジナルティの高い施策を成し遂げ、一定の成果を上げた！



2022(R4)以降 地域中核・特色ある研究総合推進パッケージ等に採択【大型補助金等獲得】

強みや特色ある研究を核に、地域社会・大学間の連携を通じて、機能強化を図る！

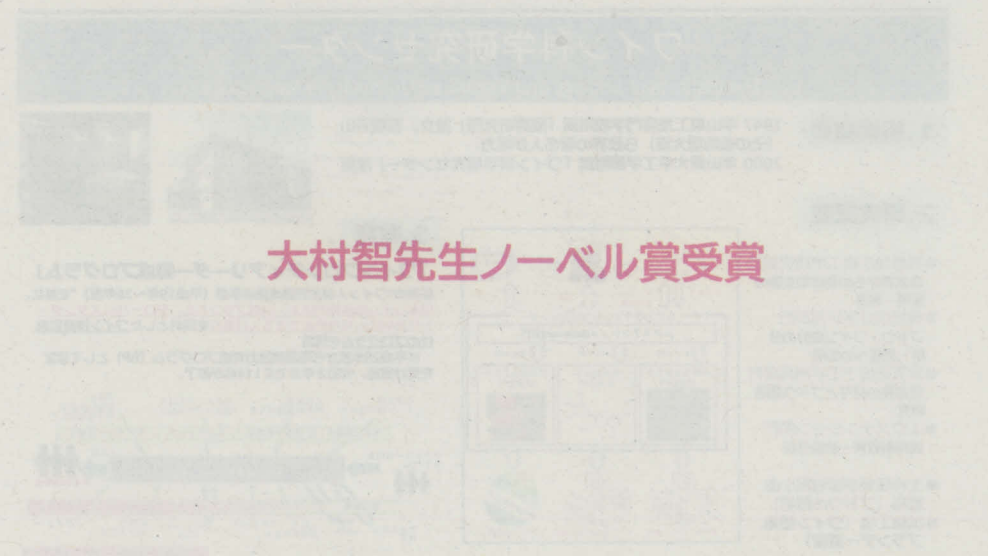


戦略的大学運営

- ・増収対策・経費削減対策
- ・教育研究組織等の見直し
- ・人事制度（教職員待遇改善等）
- ・施設設備の整備・改善（学修環境整備）
- ・地域社会との連携
 - ・人材育成の強化
 - ・男女共同参画への対応
 - ・グローバル化への対応 etc

社会が変化していく中、本学の発展に向けて数々の事業に着手し、多様な活動を積極的に推進

大村智先生ノーベル賞受賞



ノーベル賞受賞・大村智博士と山梨大学（1）

2015年 山梨大学卒業生・大村智博士がノーベル医学・生理学賞を受賞



ノーベル賞授賞式でメダルと賞状を手にする大村博士
(代表撮影・共同)

米国メルク社と共同研究を行い、1979年に抗寄生虫薬「エバーメクチン」及びその誘導体である「イベルメクチン」の開発に成功。オンコセルカ症やリンパ線フィラリア症の特効薬として無償提供され、毎年約3億人もが服用し多くの命を救っている。

山梨大学とのかかわり

- 1958年 本学学芸学部自然科学科 卒業
- 1963年 本学工学部発酵生産学科・文部教官助手
- 2006年 本学名誉顧問就任
- 2015年 本学特別栄誉博士



卒業の日 (中央) (S33) 卒業論文 山梨大学工学部発酵生産学科 助手 (前列左) (S38)

受賞記念行事を開催

- 特別栄誉博士称号授与 (H27.10)
- 山梨大学大村智記念基金の設立 (H27.12)
- 大村智特別栄誉博士・胸像設置 (H28.10)
- 大村智博士絵画寄贈 (H28.8)
- エバーメクチンモニュメント設置 (H29.10)
- 大村智記念学術館創設、大村博士・山中博士・島田学長対談 (H30.7)

ノーベル賞受賞・大村智博士と山梨大学（2）

2018年7月 大村智記念学術館創設・記念対談



■ 大村博士の業績やノーベル賞受賞に関する貴重な品々を展示。2階には大村記念ホール(130名収容)を設置。



山梨大学 大村智記念学術館 完成記念イベント 特別対談

ノーベル賞受賞者が語る！

—本書で語るノーベル賞への道—

日時：平成30年7月19日(木) 16時～
場所：山梨大学学術館キャンパス
大村智記念学術館大村記念ホール
進行：山梨大学学長
*中継：〒422-8501 学術館キャンパス山梨大学学術館大村記念ホール
※山梨大学エリカ館(学術館5階)視聴も予定しています。



島田賀昭学長(当時)が進行役となり、お二人が研究者へ進んだ経緯や研究の面白さ、ノーベル賞受賞に至るまでの道のりなどについて語られた。

対談は山梨大学HPから視聴できます。

大学アライアンスやまなし

大学アライアンスやまなし (大学等連携推進法人の認定)

設置形態を超えた大学連携

国立大学経営改革促進事業 地域・大学間連携を核とした新たな地方国立大学経営の展開 ～国公立大学のガバナンス連携による大学改革モデルの構築～

背景

地方大学の使命・役割が拡大

- 産業・医療・教育・子育て支援など、地方大学への期待や役割が拡大(地域課題に対応できる人材育成が急務)
- 資源を有効活用し、スケールメリットを活かした大学運営の展開が必要

山梨県が抱える課題(進学・就職を両輪とした取組など)

- 推計人口が27年より20年間に減少(2020年3月1日)
- 将来18歳人口(20年)の大幅減少、2019年比29.4%減

現状の大学経営に対する危機感を両大学で共有
地理的要件・開学時間分野等を考慮し、地域大学間連携が最善と判断

- 大学連携により、無財では成しえない道徳教育が可能!
- グローバル化 Society 5.0・AIなどの社会課題への対応が可能!
- 双方の強みを活かし、文理の枠を越えた教育を実施!

経緯

2019年(R元)	5月23日	山梨県・山梨県立大学との連携協力に関する協定締結
2019年(R元)	12月18日	一般社団法人 大学アライアンスやまなし設立
2021年(R3)	3月29日	大学等連携推進法人の認定

(全国初)



強化

連携による多様な教育機会の拡大

“大学等連携推進法人の特例措置”を活用

- “連携開設科目”による授業教育の充実!
- 教育分野における連携事業の対象を拡大!

大型補助金等を活用した取組

地域活性化人材育成事業 (R4年度採択)

10億円/6年

SPARC 一大学等連携推進法人を基盤とした補助事業

大学アライアンスやまなし(大学等連携推進法人)を軸とした大学改革が高く評価された

【事業内容】 地域社会と大学間の連携を通じて、既存の教育プログラムを再構築し、地域を牽引する人材を育成

(総合科学技術・イノベーション会議決定)

地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ「①大学自身の取り組みの強化」
⇒ 地域の大学・産業界・自治体と一体で、地域ニーズを踏まえた人材育成モデルへの転換を支援!

山梨大学・山梨県立大学

「地(知)のソーシャルキャピタル～学びの山梨モデル～構築事業」

これまでの実績(地域社会と大学間の連携)

◆COC、COC+ 事業の推進
◆山梨大学・山梨県立大学の連携

地方大学の使命・役割が拡大
山梨県が抱える課題の解決

教育、人材育成、研究及び運営に係る各種事業を推進し、山梨県と山梨大学を核とした山梨の活性化・地域の発展を目指す!

今後の取組

地域連携プラットフォームの設置
地域社会のビジョン及び高等教育の将来像等の議論

分離横断型の教育プログラムを開設
環境科学、地域課題解決、DX人材育成など

令和10年開設を目指す
・山梨大学: 学部等連携課程「共生創造学環」
・山梨県立大学: 工学系「メーカーズ学科」

補助金等を活用した取組

【大学教育再生戦略推進費】

(R4年度採択 10億円/6年)

地域活性化人材育成事業 ～SPARC～
地(知)のソーシャルキャピタル～学びの山梨モデル～構築事業

【国立大学改革・研究基盤強化推進補助金】

(R4年度採択 7億円/4年)

国立大学経営改革促進事業
「URAによる大学院教育と研究推進を融合させた「若手人材育成プラットフォーム」の構築

【地域中核・特色ある研究大学の振興(基金)】

地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業
「クリーンエネルギー研究拠点施設整備」 (R5年度採択 10億円)

地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業
「神経細胞-グリア細胞研究を加速する2拠点施設整備」 (R5年度採択 10億円)

【成長分野をけん引する大学・高専の機能強化(基金)】

(R5年度採択 10年)

大学・高専機能強化支援事業
「高度情報専門人材確保に向けた情報系分野の増員構想」

国立大学経営改革促進事業 (R4年度採択)

7億円/4年

URAによる大学院教育と研究推進を融合させた「若手人材育成プラットフォーム」の構築事業

【事業内容】

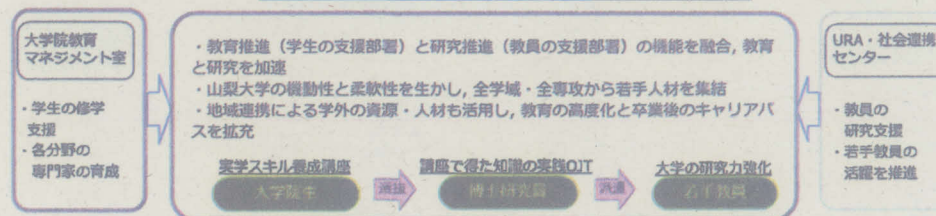
URAの経験を活用して、大学院教育と研究推進を融合させた「若手人材育成プラットフォーム」を構築し、社会で活躍できる博士人材を育成するとともに、挑戦的な目標をもつ若手教員に人的支援を行う。

地域連携プラットフォーム(R2年度 国立大学経営改革促進事業で形成した地域連携推進組織)の活用
山梨大学、山梨県、山梨県立大学、山梨学院大学、金融機関、産業界団体など計14団体が加盟
地域産業振興人材育成、高大連携、教育プログラム等を協議

教育の高度化と多角化
: 学外講師・学外交流の場の提供

産学官会 共同研究の実施
: 地域を生かす研究, 成果の社会実装

若手人材育成プラットフォーム (R4年新設)



共同研究拠点化に向けた施設やオープンイノベーションの創出等に必要施設の整備

クリーンエネルギー研究拠点施設整備

本学の最大の強みである水素・燃料電池を中心としたクリーンエネルギー研究により、わが国のエネルギー供給構造の転換GXにおけるグリーンエネルギー研究推進の司令塔となる拠点を整備することにより、地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、自治体、産業界および金融業界等との協働を通じ、地域課題解決、更には「2050年カーボンニュートラル」の実現を目指す。ベンチャー創出事業に強みを有する山梨大学が連携機関として参画する。



建設予定地

提案大学：山梨大学
参画機関：信州大学
事業規模：10億円

- 名称：ゼロミッション
みらいラボ
Zero Emission
Mirai Lab
- 場所：甲府東キャンパス
- 規模：地上4階
- 延床面積：1,614㎡

神経細胞-グリア細胞研究を加速する拠点施設整備

順天堂大学の世界トップクラスの神経変性疾患の治療・臨床研究を山梨大学の世界トップクラスのグリア・シナプス研究でサポート強化する目的として、ウェット研究を推進するための最先端設備を有する施設を整備する。これにより、拠点初スタートアップの創出を目指すとともに、変革に対応しうる人材を育成する。また、相互に高効率かつ安全なDX技術による情報資産を共有し、効率的な独自の最先端技術の創出・実装を目指す。



※写真イメージ

提案大学：順天堂大学
連携大学：山梨大学

- 事業規模：10億円
- 名称：ニューロングリア
クロストークセンター
山梨 (NGCC山梨)
 - 場所：山梨大学
医学部キャンパス
 - 規模：地上3階
 - 延床面積：1,430㎡

研究大学強化促進事業(令和5年7月申請予定)
必要となる施設等整備
30億円/1件
5億円程度/年(最長10年)

「高度情報専門人材確保に向けた情報系分野の増員構想」

支援内容：情報科学系学部研究科を有する大学の体制強化に必要な経費を措置

構想

工学部改組 (R6年度) 学部情報系分野の定員増 学部：55→90人



工学系情報分野の修士課程・博士課程の定員増

修士：23 → 43人 博士：2 → 4人

※ 学部・修士・博士、全体の入学定員は変更しない(学部や専攻等の定員振替などにより調整)

養成する人材像 (修士課程工学専攻コンピュータ理工学コース)

- ① AI・データサイエンスと専門分野の掛け合わせによる高度情報系専門人材
- ② 医・工・農分野と連携してAI技術を中心にDXを推進できる高度情報技術者
- ③ 地域ニーズを十分に理解してDXを展開し、さらにその成果を国際展開(海外の地域ニーズへの適用)できる人材

新型コロナウイルス対応

新型コロナウイルス感染症対応

患者受入訓練、ダイヤモンドプリンセス号乗客患者の受入れ

患者受入の机上訓練をR2/1/31に実施。
ダイヤモンドプリンセス号の乗客患者をR2/2/19に1名受入

髄膜炎症例の本邦初の発見など 研究成果を公表

症例報告論文を国際ジャーナルに発表
→ 乳児であっても新型コロナウイルスによって心臓停止を引き起こすことを英文雑誌に発表

ワクチン接種への貢献と体制強化

新型コロナウイルスワクチン接種稼働を開始
県内各所で新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化している中、いち早く地域接種を開始

地域接種を中心に 約13万回以上のワクチン接種を実施



医療者の広域派遣への積極的参画

文部科学省からの看護師派遣要請に応え、新型コロナウイルスの感染拡大により医療のひっ迫が深刻な沖縄県及び大阪府へ、看護師を派遣(国立大学病院で最初)

延べ派遣人数 沖縄県5名 大阪府12名

徹底したPCR検査の活用

山梨県と連携しドライブスルー方式を導入。シミュレーション訓練を実施するなど万全態勢で運用



PCR検査実施状況：約85,000件 (R5.3月現在)
(うちドライブスルー-PCR検査 約2,400回)

ICTを活用した健康観察システムによる地域医療への貢献

患者情報を一元化するシステム「SHINGEN」を開発
【SHINGEN (Smart Health Information Gathering & Evaluation Network)】

- 健康情報リアルタイムで把握、感染防止・負担軽減 ICTを活用した独自健康観察システム「SHINGEN」を開発
- 同時に休養・創薬補助を医師と共有
- ホームケア(在宅療養者)を含む県内全ての患者がシステムを利用、医師会と連携
- 大学発のICT技術、山梨県内のコロナ禍の地域医療をリード
- QRコード 同時に読取、スマホ、LINEでカブリ可能

SHINGEN利用者約179,000人

医療強化型宿泊療養施設の運営

医師・看護師が24時間常駐し、SHINGENシステムで状態監視 早期抗ウイルス治療実施可能、病状悪化の場合は迅速に病院収容



3施設で10,000名以上の患者さんを受入れ

医療従事者派遣数	沖縄県5名 大阪府12名
PCR検査実施状況	約 85,000件 （うちドライブスルー約 2,400回）
ワクチン接種（職域接種を含む）	約 13万回以上
医療強化型宿泊療養施設患者受入れ	10,000名以上
SHINGENシステム利用者	約 179,000人 ・医療強化型宿泊療養施設 約 11,000人 ・ホームケア対象患者約 150,000人 ・その他（病院、一般の宿泊療養施設） 約 18,000人
夜間コロナ発熱センター	総受付者数 850人 総診察者数 750人 コロナ陽性者数 370人

大学機能強化（戦略的大学運営）



教育研究、学部・大学院組織の見直し（第3期以降）

教育学部

- 教育人間科学部から教育学部に改称（H28）
→ 教員養成に使命を特化するため
生涯学習課程の学生募集を停止
- 教育学研究科の修士課程を廃止し教職
大学院へ一本化（H31）
- 教員養成機能の強化に向けた教職
支援部門（教職支援室）拡充（R1）

医学部

山梨GLIAセンター
Yamanashi GLIA Center

先端脳科学研究において強みを有する山梨大学。世界的に注目を集めるグリア細胞等に関する先端研究を強力に推進する拠点として設置（R3）

工学部

- 「地域防災・マネジメント研究センター」を大学院総合研究部の附属施設として設置（H28）
- 工学部改組（R6、4）に向け検討
・7学科を1学科7コースへ再編
・総合工学クラスを新設
・グリーンエネルギー化学コースを新設
・入試の一本化
・数理・DS/PBL科目の充実
・女子枠の導入
・入学定員は365人を維持

多様な進学コースに対応
デジタル人材育成機能強化

「生まれ変わる山梨大学工学部」
新入生

生命環境学部

- 大学院修士課程「生命環境学専攻」設置（H28）、博士課程「統合応用生命科学専攻」設置（H30）
- 観光政策科学特別コースを新設、フイン科学特別コースの入学定員を増員（H28）
- 生命科学系専門職業人を養成する「バイオ・メディカルデータサイエンス特別コース」を新設（R4）
- 高度生体補助技術センター設置（R4）
高度な知識と技術を持つ技術士を育成し、県内企業に向け取り組む（島田学長）
県内の不登地産環境の向上に向け、できる限りの支援を行っていきたい（長峰知事）

教職員処遇改善・研究者支援（第3期以降）

教員人事マネジメント

- クロスアポイントメントの導入（H28）
- サバティカル制度の導入（H31）
- 研究助軌の新設（R4）
・若手・外国人等優秀な人材を確保に向け、非常勤研究員（フルタイム）を常勤（有期雇用）職員として採用
- 給与システムの弾力化・インセンティブ「手当」支給
・R4表彰制度等における受賞者へのインセンティブ（予算支援）を「教育研究費」から「手当」支給に変更

附属病院職員処遇改善

- 医学部附属病院職員に対する各種手当の支給（R2）
・コロナ禍に尽力する職員に対し各種手当を支給（ワクチン接種、療養施設、発熱センターなどへの対応者）
- 兼課職員に対する処遇改善手当の支給（R4）
・認定看護師等資格保有者に対するインセンティブ付与（認定看護師等手当を兼課職員等処遇改善手当）

研究環境改善

- 研究マネジメント室とURAセンターを設置（H28）
・研究マネジメント機能と研究支援体制強化（URA2〜4名）
- イノベーション創出強化本部を設置（R1）
・内閣府の一事業。新たな民間資金の獲得手法を検討
- IR機能の強化
・研究力の分析・可視化、執行部と共有し大学運営に反映
- ファカルティスペース整備
・異分野研究者の交流・意見交換を活性化

若手研究者支援

- 優秀な若手研究者の表彰制度
・若手研究者奨励費（10名、総額1百万円）
- 女性研究者表彰を創設（対象：学生・院生・研究生）（H28）
・「男女共同参画学術奨励費」
- 若手特任教員を専任職員への職務的登用（R1）
- 若手人材育成プラットフォームの構築（R1）
・URAによる大学院教育と研究推進を融合させた支援

大村智記念学術館

平成30年7月完成
新たな歴史を刻む象徴的な建物

附属病院再整備事業

- 第1期棟 H27年
床面積 358㎡ (北病棟 幸病棟)
- 第2期棟 R2年
床面積 250㎡ (西病棟)
- 第3期棟 R5年
診療支援部門 手術部 (Hセンター等)

手術部門の強化 (高機能手術の提供)
救急・災害時医療への対応強化

シミックプラザ

令和4年3月完成 (医学部キャンパス)
シミックホールディングス株式会社の協力をいただき建設。「ラーニング commons」「プレゼンテーションホール」を完備

附属病院 敷地内薬局

R5年10月 開局予定

ワイン科学研究センター新棟

令和4年6月完成
「エクステンション部門」を集約させ、効率的な分析業務が可能となり、共同研究やリカレント教育を促進

ワインセラー、機能検査室も整備

その他

- 総合研究棟外壁工事 (H30)
- 動物実験施設1期棟改修事業 (R3)
- 附属中学校瓦葺屋根のリアプリー化
- 若葉の学生寄宿舎北棟を改修 (R2)
- 看護学科教育研究棟外壁を改修 (R3) など

外壁落下事故を受け、全面にアルミパネル材で囲定

自治体との連携

豊かで活力ある地域社会の形成と振興を図り、相互の発展を目指す

地方公共団体等 22

企業・団体との連携

〇シミックホールディングス株式会社「研究連携協定」(H30.11)
ヘルスケア分野における研究開発、教育・研修
〇山梨経済同友会・県内5大学「産学連携協定」(R1.7)
地域人材の育成及び産学協働に資する人材の育成
〇NTTドコモ「災害時における相互連携協定」(R2.9)
災害時における安定した通信サービス提供
〇MFV山梨スポーツクラブ・(一社) VFSスポーツクラブ包括
的業務連携 (R4.2)
活力ある地域社会の形成と地域の振興を目指す

水素・燃料電池関連事業での連携

山梨県、民間企業等との産学官連携により事業化を促進

〇FCyFINEの推進
・水素社会に向けた『やまなし燃料電池バレー』の創成
〇一般社団法人 FC FINE PLUS 設立 (R3)
・カーボンニュートラル社会、水素社会実現に向けて、FCyFINE事業の成果を継承して、さらに発展させていく

日本初の燃料電池電動アシスト自転車試作機(R3.5.31) FC FINE PLUS 設立式: 約20の県内企業・団体参加(R3.12.16)

山梨中央銀行との連携

〇地域連携コーディネータを導入 (H28)
〇頭取が講師として学生に講義
〇中級職員への産学連携セミナーの開催
〇連携推進協議会の開催 など

その他

〇COC事業・COC+事業
→ 地方創生、地域協働による未来創生推進
〇大月市との連携協定
→ 大月市立中央病院の診療体制の充実に向けた取組推進

※ その他、教育・文化、健康・福祉、生活・自然環境、産業・科学技術、まちづくりの各分野において、自治体や企業等と連携

包括・研究連携協定 (30機関)

地方自治体等	包括的連携協定	山梨県	H17.3.28
		甲府市	H17.10.7
		山梨市	H18.11.22
		中央市	H18.12.19
		北杜市	H22.3.24
		南アルプス市	H24.6.28
		甲州市	H27.11.12
		甲斐市	H28.6.30
		韮崎市	H29.3.29
		笛吹市	H29.8.22
公設法人等	包括的連携協定	富士河口湖町	H30.1.24
		鳴沢村	H30.4.11
		昭和町	H30.7.25
		山梨県立	R1.12.16
		山梨県立	R2.1.21
		峡南5町	R3.7.19
		大月市	R4.12.26
		岡谷市	H16.6.30
		山梨県ワイン産地組合	H17.3.8
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
企業 (金融機関)	包括的連携協定	富士吉田商工会館	H17.12.13
		仲田育成事業財団	H26.7.3
		山梨中央銀行	H17.7.11
		甲府信用金庫	H17.12.21
		山梨信用金庫	H18.4.25
		東京エレクトロン(株)	H16.6.25
		タマ化学(株)	H17.5.25
		(株)シャトルレー	H17.12.7
		株式会社	H18.11.1
		シミックホールディングス株式会社	H30.11.26
企業 (製造業)	包括的連携協定	山梨経済同友会・県内5大学	R1.7.19
		NTTドコモ	R2.9.1
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		富士吉田商工会館	H17.12.13
		仲田育成事業財団	H26.7.3
		山梨中央銀行	H17.7.11
		甲府信用金庫	H17.12.21
		山梨信用金庫	H18.4.25
		東京エレクトロン(株)	H16.6.25
		タマ化学(株)	H17.5.25
その他	包括的連携協定	山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25
		山梨県水産物産協会の	H17.8.25

地域人材養成の強化 (第3期以降)

産業振興に係る人材養成事業 (山梨大学: リカレント教育講座)

山梨大学の強み・特色を活かしつつ、山梨県と連携し、地域の産業振興に係る人材養成事業を展開
社会の要請等に基づき、キャリアアップに向けた学び直しとキャリア形成の一体的な推進を図る

「医療機器産業技術人材養成講座」

医療機器に必要な技術・知識等を習得する機会を県内産業界の社会人技術者等に提供するために、平成27年度から「人材養成講座」を開催 (やまなし地域活性化雇用創造プロジェクトの一環として実施)。

令和3年度までに、110社 (延べ約140名) が修了 (認定試験合格者へ山梨大学産学連携設計実務士を授与)

「水素・燃料電池関連技術人材養成講座」

水素・燃料電池関連技術に関する必要知識を習得する機会を県内産業界の社会人技術者等に提供するために、平成28年度から「人材養成講座」を開催 (やまなし地域活性化雇用創造プロジェクトの一環として実施)。

令和3年度までに、50の企業・団体、118名が修了 (受講企業約45%、受講生の約70%が燃料電池関連事業に従事)

「女性のためのステップアッププログラム」

結婚・出産・育児等で一任仕事を離れた女性を対象としたプログラム。講義と山梨県内の民間企業と連携したインターンシップを通じて、必要なマナーやコミュニケーション能力を習得することで、自立的なキャリア形成を実現。

令和3年度は、山梨県の支援事業として開講し、15名が参加し、14名が修了 (これまで合計32名が修了)。

「ワイン・フロンティアリーダー養成プログラム」

従前の「ワイン人材生産養成拠点事業 (平成19年~26年度)」を基に、日本ワインの品質の向上、地域ブランド化、グローバル化・スタンダード化を中核として推進する人材養成を目的としたワイン技術者向けのプログラムを開講。

令和3年度から受講生を募集し、令和3年度までに、114名が修了 (認定試験合格者へ山梨大学ワインエキスパートを授与)。

「ドローンとAIを活用したDX推進 データサイエンティスト人材養成プログラム」

県内の社会人のキャリアアップや転職のためのスキルアップに向けた、AI技術、ドローン操縦技術を活用した画像解析やデータ解析スキル修得のための教育を行うプログラム。社会的ニーズが高まっているDX推進に必要なデータサイエンス、ディープラーニング、ドローン操縦等の科目を開講。

令和4年度から開講し、60時間以上を要する正規受講生は24名、1科目単位で受講する部分受講生は延べ138名 (*) が受講。

「プログラミング言語python入門講座 データサイエンス基礎・応用セミナー」






県内の社会人向けに学び直しの機会を提供する情報・データサイエンス分野に係る本学独自のリカレント教育のプログラム。令和元年度から令和3年度にかけて、テーマ・レベル別に社会的ニーズが高まりつつあるデータサイエンス分野の講座・セミナーを開講。

令和3年度は3講座に33名が参加。

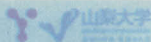
男女共同参画・ダイバーシティ



様々なライフステージにある女性研究者へのオンタイム支援、若い女性研究者が自然と抱いている将来への不安を取り除き、海外の拡大が可能な雰囲気・環境などの活動をベースに、教職員の間も動きやすく、学生の持ちが学びやすい環境を整備を進めています。

<h3>山梨大学学長行動宣言</h3> <p>平成27年9月</p> <p>男女共同参画の加速のための山梨大学学長行動宣言を発表</p>  <p>令和4年4月改正</p>	<h3>イクボス宣言</h3> <p>令和2年10月28日</p> <p>山梨県立大学と連携し山梨県立大学・山梨県立大学イクボス宣言を公表</p> <p>働きやすい職場づくりを推進</p> 	<h3>ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ</h3> <p>文部科学省科学技術人材育成補助事業（令和2～7年度）</p> <p>「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択山梨大学、シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばくとの3機関が連携し、地域のダイバーシティ環境の牽引を目指した各種の取り組みを実施。</p> <p>中間評価（令和4年度）A評価</p>  <p>女性研究者の研究力向上 女性研究者割合の向上</p>	
<h3>研究支援制度</h3> <p>産休・育休からの復帰支援 平成27年度制定 助成金10万円/人 (各年1～2名、総計4名)</p> <p>論文投稿・英文校閲費支援制度 平成27年度制定 上限5万円/篇 (各年1～3名、総計8件)</p>	<h3>キャリアアシスタント制度</h3> <p>平成28年度制定</p> <p>共働き世帯又は一人親家庭の研究者でライフイベント中の者、ライフイベント中の配偶者がいる者を対象に学生の支援員を配置</p> <p>実績：（～令和4年度） 支援対象研究者：延べ151人 学生支援員：延べ236人</p>	<h3>優秀教員奨励賞</h3> <p>平成28年度制定</p> <p>本学に所属する優れた研究成果を挙げた女性研究者を表彰</p> <p>実績： （平成28～令和4年度） 優秀賞7名 奨励賞8名</p> 	<h3>ダイバーシティに係る研修会</h3> <p>平成28～令和4年度</p> <p>管理職を対象としたダイバーシティ推進に対する意識醸成（年1回開催）</p> <p>令和4年度「組織として成長をあげるためのメンター制度とマネジメント」を実施</p> 

国際交流・グローバル化①



学長主導によるグローバルパートナーシップの形成

学生や教職員の相互交流による大学の国際化の推進を目的として、学長自らが海外の協定校や新たな協定締結の可能性がある大学等を積極的に訪問。

機関数



※ 平成28年度以降新たに34機関と国際交流協定を締結（平成27年度40機関⇒令和4年度74機関）

甲府市ふるさと応援寄付金（国際交流）の創設

甲府市との包括連携協定に基づき、本学留学生の支援と甲府市の国際交流の推進を目的として令和元年度に創設。甲府市は寄付金の90%を国際交流推進事業費として本学へ帰還。


※ 留学生への奨学金、地域との交流事業、山梨大学及び甲府市の広報などに活用。

大学の世界展開力強化事業

国際性と創造性、応用力を持ち、アジア諸国の受け皿となつて Society 5.0やDXをリードするAI人材を育成することを目的。

本学、杭州電子科技大学（中国）、国立芸術大学校（韓国）、ペルリス大学（マレーシア）の4大学のコンソーシアムにより、各大学の特色を活かした交流プログラムを開発。

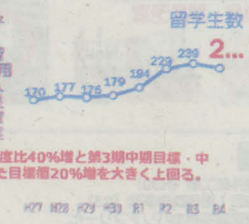
※ 令和3年度選択、プログラム名称「A31アジア美術建築演習対AI教育プログラム」



外国人留学生の受入

西南交通大学や杭州電子科技大学とのデュアル・ディグリープログラム、留学生OBネットワークを活用した留学生誘致や滞日帰入後の導入、留学生就職促進プログラムなど、留学生確保につながる各種取組を実施。


※ 平成27年度比40%増と第3期中期目標・中期計画に掲げた目標値20%増を大きく上回る。



留学生就職促進プログラム

留学生人材の地域内外への雇用の促進と定着を目的とし、本学と山梨県、甲府市、県内企業と産学一体的コンソーシアムのもと、日本語教育、キャリア教育、企業連携教育を柱とする教育プログラムを提供。

※ 委託期間は令和2年度～令和4年度



国際交流・グローバル化②



大学間交流協定校（34機関と協定締結）

国名	大学等名	締結年月日	国名	大学等名	締結年月日
中国	内蒙古医科大学	2016.9.15	オーストラリア	シドニー工科大学	2022.6.16
	北京協和医学院	2016.3.1	ドイツ	ガオルグ・ジモン・オーム工科大学ニールンベルク	2015.9.22
	中華人民共和国外外女学院	2016.3.31	バトナム	ホーチミン市科学大学	2016.10.28
台湾	五邑大学	2019.12.25	フランス	ポルドー大学	2016.3.2
	西安医学院	2020.3		ポー・エ・デュ・ハイ・ド・ワール大学	2018.6.7
	漳州大学	2020.7.13	マレーシア	マレーシア・ペルリス大学	2017.5.18
タイ王国	国立台湾科技大学	2018.2.1	マレーシア	マレーシア・バン大学	2017.10.28
	国立陽明交通大学	2021.6.7		マレーシア工科大学	2017.11.8
	タマセツ大学	2016.4.2		パトロナス工科大学	2022.12.7
インドネシア	プリンス・オブ・ソングラ大学	2018.11.27	ミャンマー	パテイン大学	2017.9.12
	マヒドン大学カンチャナブリ校	2023.2.20		ミャンマー教育省	2019.2.17
	ジョグジャカルタ大学	2016.1.13	スロバニア	リュブリャナ大学	2017.9.18
アメリカ合衆国	イースタンケンタッキー大学	2018.9.28	トルコ	アンカラ大学	2017.12.6
	アイオワ大学	2017.12.12	フィリピン	イザララ独立大学	2019.6.13
	ノーザンアイオワ大学	2021.1.26	ウクライナ	ボリス・グリンチェンコ・キエウ大学	2022.10.24
			カンボジア	王立バンペン大学	譲り受け中
			パキスタン	ラホール大学	2022.12.6

UPPA : un rapprochement avec Koufu

H29.11.1～3 島田副学長がフランスのホー・エ・デュ・ワール大学を訪問し、同日、市庁舎において、バイル・ホー市長両席のちと、両大学の共同研究や研究者・学生の交流を拡大していくための検討を開始することに双方の学長が合意しました。その様子でフランスの新聞3紙に取り上げられました。



連続市民講座 毎年度開催



山梨大学と読売新聞甲府支局が共催し、「知る喜び～ひと・くらし・けんこう～」と題した全10回の連続市民講座を開催しているもの。本学が行っている人の暮らしや健康などに密接に関わる様々な研究をテーマに、本学教員が講義する。

【令和4年度実績】金10回開講、772名受講 【令和5年度開講予定】金10回



過去の講座の様子

開催概要

開催日	4月～平成3月まで毎月・第3土曜日（全10回）
開催方法	当面の間オンライン方式で実施
視聴資格	誰でも参加可能。
受講方法	期間内に申し込みフォームからの申し込み
時間	午後1：30～3：00まで（午後1時間増）
受講料	無料

申込方法

オンラインでの開催のため、事前に申し込みフォームより申込み。
⇒申込者に、視聴のためのURLを開講3日前までにメールにて送付。

お問い合わせ先：山梨大学 教養支援部 教務企画課 連続市民講座担当
電話：055-220-8043
メール：koukai-kouza@yamanashi.ac.jp

令和5年度連続市民講座（読売新聞甲府支局と共催）

スケジュール 一覧表

開催日	開催タイトル	所属	講師
第1回 2023年4月15日(土)	講座ってどんな内容？～講座と手帳と付き合おう～	医学部	土屋 肇一
第2回 2023年5月20日(土)	これからの時代の感染症対策	医学部	井上 博
第3回 2023年6月17日(土)	自然災害に備える～山梨で発生する地震災害について～	工学部	後藤 聡
第4回 2023年7月15日(土)	食糧食品って何？～基礎から食品開発まで～	生命環境学部	藤田 謙
第5回 2023年9月16日(土)	産学連携のための講座～CG・VR・シミュレーション・AIで生活を豊かに～	工学部	安藤 英俊
第6回 2023年10月21日(土)	宇宙に学ぶ新エネルギー材料創製	工学部	佐藤 佳也
第7回 2023年11月11日(土)	古代の富士山噴火と地域社会～直撃の大火火を中心に～	教育学部	大隅 雅樹
第8回 2023年12月16日(土)	男性にもある更年期障害	医学部	澤田 健史
第9回 2024年2月17日(土)	海の微生物がつかう雲～気候と生物の相互作用～	生命環境学部	越本 雅
第10回 2024年3月16日(土)	ここを舞台にカウセンシング心電学の世界～観望者の始まる熱いコミュニケーション～	教育学部	田中 健史樹

学生団体・サークル



学生団体「SHINE」

笛吹市の地域活性化に取り組む学生団体。教育学部3年（令和4年度時）の奈良千尋さんが代表を務めている。笛吹市内の高校生や大学生たちとともに、ボランティア活動やイベント開催などに取り組んでいる。
【新聞掲載】
令和5年1月31日
（山梨日日新聞）



山梨めぐりみ病院

保育施設等を訪問し、めぐりみを使った「お医者さんごっこ」を通して、子ども達の病院や医療器具に対する恐怖心を和らげる活動を行っているボランティアサークル。きれいな手の洗い方やバランスのとれた食事など、さまざまなテーマに基づいた保健教育に取り組んでおり、子ども達が楽しみながら健康知識を学べるように演劇も行っている。



学生団体「ToMate」

中央市を拠点に小中学生を対象としたスポーツ活動や学習支援を企画、開催している。令和5年3月で本学を卒業した教育学部4年（令和4年度時）の松嶋陸さんが立ち上げた。スタッフは教育学部の学生が多く、子供の関わり方を学べる機会となっている。
【新聞掲載】
令和4年7月29日（朝日新聞）
令和4年5月3日（毎日新聞）

山梨県



やまなし食育推進ボランティア

山梨県が「食育」を広く県民運動として推進していくために始めたボランティア。山梨県内の大学生をボランティアとして募り、山梨大生も参加している。保育園や幼稚園で食育活動を行うもの。

自治体



ももっ子クラブ

令和5年3月に本学を卒業した、教育学部4年（令和4年度時）の清水そらさんが立ち上げた学生団体「アラベスク」。活動の一貫である「ももっ子クラブ」では、認定NPO法人フードバンク山梨と共同で、貧困家庭にある子どもたちの学習支援を行っている。
【新聞掲載】
令和4年5月3日（毎日新聞）
令和4年7月29日（朝日新聞）

企業



空飛ぶランタン祭り

本学生命環境学部3年の竹井愛さんが中心メンバーとなり、市川三郷町活性化のため、「市川手漉き和紙雪工房」と一緒に和紙で作ったランタンを空にあげるお祭りを開催したものの、開催費用はクラウドファンディングで集め、120万円集めることに成功。令和5年度の開催も検討している。
【メディア出演】
令和4年8月5日
（UTVテレビ山梨）

附属病院

附属病院

附属病院再整備計画(1)

山梨県の拠点病院として社会的要請の強い医療への取り組みを推進

- ▼ がん疾患
- ▼ 周産期医療
- ▼ 災害医療



ドクターヘリによる患者移送



DMAT隊員の派遣要請

地域医療及び高度医療を担う多様な医療人材を養成

- ▼ がん診療専門医
- ▼ 産科医・助産師
- ▼ 肝疾患コーディネーター



院内助産による助産師養成

病院機能を充実し、再整備を進め、高度医療や臨床研究を推進

新病院でのハイブリッド手術室や縮中MRI、ロボット手術を用いた高度な手術件数を増加



可動式MRI手術室



ハイブリッド手術室



ダヴィンチ

臨床実習から専門研修までのシームレスな教育環境の構築



附属病院再整備計画(2)

第Ⅰ期 完成 (H27年度)



平成27年6月30日竣工・平成27年12月稼働

建物構造 (概要)

- 病床数 368床 (病棟全体618床)
- 建物面積 4,069㎡
- 延床面積 20,888㎡
- 鉄筋コンクリート造 (免震構造) 地上7階建 (原上ヘリポート整備)

基本コンセプト

- 本院の役割と患者ニーズに対応した施設設備
- 手術部門の強化 (高機能手術の提供)
- 救急・災害時医療への対応強化
- 高度人材医療人養成のための教育環境整備
- 病院経営の効率化による安定経営の実現



[MRI手術室]

[ヘリポート]

第Ⅱ期 完成 (R2年度) / 第Ⅲ期 完成 (R5年度)

◆第Ⅱ期:管理部門と病棟(250床)を併せて建設

総工:平成30年10月4日
竣工:令和2年6月
開院:令和2年9月21日

ステップ1 H28~H29年度	基幹整備(支障切り直し)
ステップ2 H30~R2年度	新病棟Ⅱ期(7階) ■ 1階:管理部門、2階~7階:病棟(既存西病棟250床移転)、院内学統 ■ 延床面積 2,139㎡ ■ 基床面積 13,549㎡ ■ 鉄筋コンクリート造(免震構造)地上7階建

◆第Ⅲ期:各センター等の整備

総工:令和3年11月1日
竣工:令和5年3月3日
開院:令和5年6月予定

R2~R4年度	東病棟解体 新病棟Ⅲ期(7階) < 薬剤部、MEセンター、看護部、医療情報室、医療の質・安全管理部、感染制御部、臨床研修部ほか >
R5~R8年度	中央診療棟・特殊診療棟 中央診療棟・特殊診療棟改修 放射線部、検査部、光学医療診療部、リハビリテーション部、血液浄化療法室、産婦人科外来、生体医療センターほか

◆中央診療棟・特殊診療棟、外来棟改修

H30~R3年度	中央診療棟・特殊診療棟改修 放射線部、検査部、光学医療診療部、リハビリテーション部、血液浄化療法室、産婦人科外来、生体医療センターほか
R5~R8年度	外来診療棟改修 ※外来改修は改築に変更

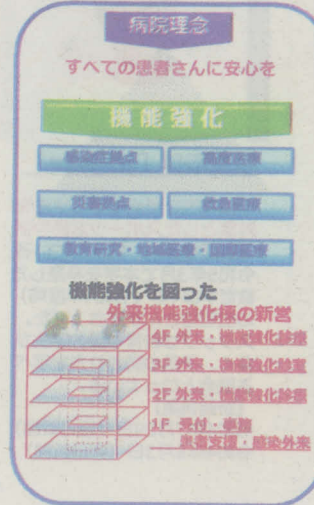


附属病院再整備における施設整備の方針

令和9年度
完成予定

現在の外来棟を取り壊し、「外来機能強化棟」を新設

令和6年度から4ヶ年の計画事業で、老朽化・狭小化した既存外来診療棟を改築し、外来手術センター等を設置した「外来機能強化棟」を敷地南側に整備。



その他様々な活動

学校法人千葉工業大学との連携

令和4年6月

学校法人千葉工業大学と包括的連携協定を締結

包括的連携協定締結式



令和4年6月20日(月)、本学と千葉工業大学は、包括的な協力関係を築き、連携を深めることによって相互に発展し、我が国の学術及び産業の発展と人材の育成を目指すことを目的とした包括的連携協定を締結。

島田健路学長、千葉工業大学瀬戸原修理事長、松井孝典学長が協定書に署名。

島田学長は「両大学の教育研究水準を向上させ、社会が求める課題解決、さらには山梨県をはじめ地域の発展と、それを支える科学技術の進展に寄与するものと確信している」と挨拶。松井学長から「私立大学・国立大学の枠組みにとらわれず、人材育成、教育研究を積極的に推進していきたい」と挨拶。

- 大学連携の概要
- DXやSociety5.0、ウィズコロナなど急激な社会変革への対応
 - デジタル人材やイノベーションの創出を担う人材等の育成・確保
 - 産業界からの人材需要や進学のニーズに柔軟にすぐく、教育改革を推進(文理融合教育やSTEAM教育、教員・データサイエンス・AI教育の推進)
 - コロナ禍により停滞した大学間交流や学生交流の再構築(遠隔・オンライン教育の積極的な活用)
 - 工学部の発展的に改組する構想

	山梨大学	千葉工業大学
学部・大学院	(4学部・入定:825名) 教育学部・医学部・工学部 生命環境学部	(5学部・入定:1,990名) 工学部・創造工学部・先進工学部 情報科学部・社会システム科学部
特色	クリーンエネルギー・ ワイン研究等が強み(特色) コロナ禍における迅速な対応・ 様々な取組が多方面から評価 (一社)大学アフィアンス やまなしなど大学間連携による 機能強化を促進×大学等連携推進法人	ロボット・産業界連携研究等が強み 志願者増加率2年連続 全国1位(2年連続10万人超) 災害対応ロボットが 産業界一躍発展まで活躍 産業界との強固なネットワークと 高い就職率(R2卒業生:96.9%) 小規模設備「はやぶさ2」の 観測機器開発・検討に参画

- 連携事業学部件数
- 教育学部 : 2件
 - 医学部 : 4件
 - 工学部 : 6件
 - 生命環境学部 : 3件
 - 総合分析実験センター : 1件
 - クリスタル科学研究センター : 1件
 - 衛生工学研究センター : 1件


学校法人千葉工業大学との連携

代表的な共同研究

工学部 湯井基雄教授 × 千葉工業大学 工学部 小島敏彦教授

事業概要:
半導体における光と電子の相互作用を、高時間・高空間分解能で詳細に評価し、テラヘルツ光発生の高効率化や、光電融合技術の開発につなげる。千葉工大(小島研究室)にて高時間分解能評価、本学(湯井研究室)にて高空間分解能評価を行い、結果を相互フィードバックしつつ、半導体中の光電子キャリアの局所的な特性を明らかにする。半導体技術の革新及びこれからの人材育成につながると期待される。


教育活動内容:
○千葉工業大学工学部電気電子工学科の授業・研修
○両大学の教員・学生が参加する研究ミーティング
○各大学において光学測定(共通サンプルを使用)



生命健康学部 山田康彦教授 × 千葉工業大学 人工知能・ソフトウェア技術研究センター(STAIR) 竹内 彰一准教授及び研究員

事業概要:
不妊治療である顕微鏡授精法(ICSI)で使用されるマイクロコンピュータ操作をAI・ソフトウェア技術によりアシストする新規システム開発を行う。顕微鏡の視野に表示されるガイダンスに従って熟練者のICSIの手技を習得できる。教育ツールとしても有用であり、医師養成時の有効活用や不妊治療時の症例向上にもつながると期待される。

教育活動内容:
○千葉工業大学人工知能・ソフトウェア技術研究センターの研修
○本学発生工学研究センターの視察・研究打合せ
○AI搭載支援型マイクロコンピュータ開発に必要な映像データ取得のための実験



工学部 齋藤純彦教授 × 千葉工業大学 創造工学部 松崎元教授

事業概要:
先進的DX企業である成田国際空港株式会社の協力を得て、両大の学生とともに成田国際空港のフェーズフリー化について検討する。相互の研究の学生同士の交流は主にオンラインツールにて実施し、対面での成果発表会や共同ゼミ合宿も併せて開催し、学生育成プログラムの開発を行う。遠隔の他分野の人材との共同作業により、これからのデジタル人材に求められるスキルや経験の習得が期待される。


教育活動内容:
○成田国際空港株式会社との視察及び千葉工大松崎研究室の視察・研修
○発表会開催(富士古田市)
○共同ゼミ合宿(富士河口湖町)



工学部 藤本太郎教授 × 千葉工業大学 先進工学部 安藤昌也教授

事業概要:
テーマ「AI時代における社会的Well-beingを実現するモノ・コトづくりの意味」
認知テーマについて、人間中心設計とデザインの観点から「意味」づけの議論を行う。理論構築を目指し、研究官どうしの意見交換(研究会交流)から開始していく。

教育活動内容:
○千葉工業大学先進工学部の視察・研修
○合同研究発表会、交歓会の実施及び研究会への合同参加
○ワークショップの共同実施及び共同実験の実施



Chat GPT の活用

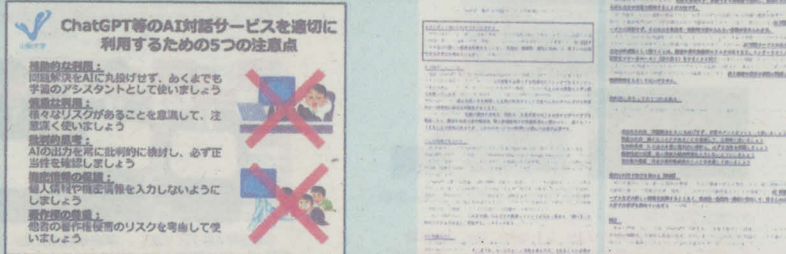
令和5年4月25日、ChatGPT等のAI対話サービスの利用について学長メッセージを発信

学長メッセージの内容

【学長メッセージ】 本学の考え=適切な利用で学びを深める時代が進むにつれ、新しい技術が登場し、学びの環境は絶えず変化します。常に最新の正確な情報に基づいて柔軟に思考・判断し、しなやかに行動変容することが重要です。AI対話サービスなどの新しい技術を拒絶することなく、**効果的・倫理的・適切に利用して、皆さんの山梨大学での学びを深めていただくことを願っています。**(学長メッセージより一部抜粋)

ChatGPT等のAI対話サービスを適切に利用するための5つの注重点

- **適切な利用:** 課題解決をAIに任せすぎず、あくまでも学習のアシスタントとして使しましょう
- **倫理的な利用:** 様々なリスクがあることを意識して、注意深く使しましょう
- **倫理的な利用:** AIの出力を常に批判的に検討し、必ず正当性を確認しましょう
- **倫理的な利用:** 個人情報が流出するリスクを最小限に抑え、個人単位で個人情報を入力しないようにしましょう
- **倫理的な利用:** 著作権の侵害、他者の著作権保護のリスクを考慮して使しましょう



今後予定する取組

- ・対話型AIの効果的な活用に向け、良いアイデアや取り組みを募集し、集積する。(一例として表彰制度の活用など)。
- ・なお、集積(提案)方法は理事や大学教育・DX推進センターで検討する。
- ・集積した事例等は、学内に普及させるほか、学内GPTの構築にも繋げていく。
- ・9月に対話型AIの効果等を題材にFDを開催し、周知を図っていく予定。(山梨県立大学や山梨学院大も参加)

社会的な反響

発信後、以下の報道機関で報道された。

- ・4/26 山梨日日新聞記事掲載
- ・4/27 テレビ山梨ニュース番組「すぞろく」にて放送
- ・5/18 朝日新聞記事掲載

山梨大学東京オフィス平河町

令和4年5月

産学官連携活動、同窓生との交流活動の拠点として整備



設備等

室内スペース	24.10坪(80㎡)
円形テーブル	3台(黒鏡タイプ)
最大収容人数	20人
椅子(肘掛けあり)	6脚
椅子(肘掛けなし)	20脚
無線LAN	有り
TV会議	無し
プロジェクター	有り
マイク会議	無し

デスク

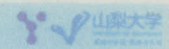


主要機関が集まるエリアに東京オフィスを備所

【アクセス】東京メトロ有楽町線/半蔵門線/南北線「永田町」駅4番出口目前
【住所】東京都千代田区平河町2丁目7番1号 麹町ビル地下1階

令和4年5月26日(木)、港区田町にあった東京オフィスを千代田区平河町に移転したことに伴い、開所式を挙行了しました。
新オフィスの名称は「山梨大学東京オフィス平河町」とし、産学官連携や教職員の教育研究など、本学の様々な活動の拠点として、活用することを目的としています。
島田 眞路前学長が「立地にも恵まれ、便利で安心・安全なこの東京オフィスを多くの人に広く活用いただきたい」と挨拶し、その後、本学関係者・来賓によるテープカットが行われました。

トピック



教育 グローバル

2023.5.16 Tue.
タイ・ラジャマンガラ工科大学イサン校と本学工学部との学部間交流協定締結式を挙行政



令和5年5月16日(火)、本学大記念ホールにおいて、タイ・ラジャマンガラ工科大学イサン校と本学工学部との学部間交流協定締結式を挙行政しました。
本交流協定は、学生間や教員間の交流を通してタイと日本の技術・文化交流を深めながら次世代を担う学生を共同で育成すること、教員間の研究交流を通して工学分野における国際共同研究基盤を醸成することを目的とするものです。
今後、本協定により、教職員・学生合わせて年間10名程度の交流を予定しています。

教育 研究

2023.5.13 Sat.
国際ブドウ・ワイン科学コンソーシアム Oenoviti International 「SYMPOSIUM 2023日本大会」開催!



令和5年5月13日(土)、甲府キャンパスにおいて、国際ブドウ・ワイン科学コンソーシアム Oenoviti International 「SYMPOSIUM 2023日本大会」を開催し、10カ国からワイン技術者、研究者、学生など約100名(オンライン参加を含む)が参加しました。
中村和孝学長は「本学ではワインに関する教育や研究を1947年から続けており、本学を特徴づける重要な研究分野のひとつ、本シンポジウムでワインやブドウに関する世界的な課題について最新の情報を交換し、さらに研究を進めてほしい」と挨拶しました。

教育 研究

2022.6.9 Thu.

ワイン科学研究センター新棟
お披露目式を挙げる！



令和4年6月9日（木）、本学ワイン科学研究センター新棟のお披露目式を挙りました。

新棟は、学生の増加やリカレント教育に対応できる教育・研究スペースの確保やこれまで別棟にあった技術者の教育や企業への技術的援助等を行うための「エクステンション部門」を業付さけ、効率的な分析業務や共同研究を行うことを目的に建設されました。

新棟は、地下1階、地上3階建てで、地下には、ワインセラー（隣には、テイasting用の「官能検査室」、2階には、ワインの味や香りを分析する機器を備えた「製法分析室」が設置されました。

社会貢献・地域連携

2023.4.7 Fri.

甲府市及び一般社団法人FCyFINE PLUS
とゼロカーボンシティ実現に関する
連携協定を締結



令和5年4月7日（金）、甲府市役所において、甲府市及び一般社団法人FCyFINE PLUSと、ゼロカーボンシティ実現に関する連携協定の締結式を挙りました。本協定は、自然豊かな甲府のまちを将来の世代に引き継ぐため、地域資源を有効活用した産学官による脱炭素化の取り組みを推進することにより、ゼロカーボンシティの実現と地域課題を解決した持続可能なまちづくりの構築に資することを目的と締結したものです。

医学部・附属病院

2022.12.26 Mon.

大月市と包括的連携協定を締結



令和4年12月26日（月）、医学部キャンパスにおいて、大月市との包括的連携協定の調印式を挙りました。

調印式では、小中保健大月市長が「本協定により、市の課題である持続可能な地域医療の提供体制の整備に繋がることを期待している」、島田副学長が「幅広い分野での連携を考えているが、まずは医療の分野で大月市立中央病院の診療体制の充実に向けた取組みを進めていきたい」とそれぞれ挨拶し、連携活動への決意を述べました。

社会貢献・地域連携

2022.10.17 Mon.

ヴァンフォーレ甲府・スポーツクラブ連携協定
天皇杯優勝旗断断設置！



令和4年10月17日（月）、山梨県のプロサッカークラブである「ヴァンフォーレ甲府」が16日に開催された天皇杯第A第102回全日本サッカー選手権大会で優勝したことを祝し、優勝旗を授けました。

本学では、2010年から株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブが運営している「ヴァンフォーレ甲府」へ県学協キャンパスのクラブハウスを練習場として提供しており、令和4年2月には、同社および一般社団法人ヴァンフォーレスポーツクラブと亶て協力ある地域社会の形成と地域の振興を図ることを目的に、包括的連携協定を締結しております。

教育

2022.9.11 Sun.

小・中学生向け教育プログラム
「やまなしジュニアドクター育成自然塾」入塾式



令和4年9月11日（日）、小・中学生を対象とした教育プログラム「やまなしジュニアドクター育成自然塾」の入塾式を挙行し、第1期生47名が入塾しました。

これは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の支援を受け実施するもので、県内外の小5年生から中3年生を対象に、持続可能な社会の実現に貢献する科学者の育成を目指す教育プログラムです。

島田副学長から「このプログラムで貴分の好きなものを見つめ、発展させ、科学技術に対する興味や進歩心をもちながら、科学技術・インバースョンの未来を担う次世代の科学者として育っていくことを願っています」と挨拶がありました。

教育 研究

2022.7.6 Wed.

戦略的スマート農業技術等の開発・改良事業「AI 駆動型栽培体系：人間とロボットの協働によるシャインマスカット栽培の高効率・高品質化」のキックオフミーティングを開催！



令和4年7月6日（水）、甲府キャンパスにおいて、戦略的スマート農業技術等の開発・改良事業「AI 駆動型栽培体系：人間とロボットの協働によるシャインマスカット栽培の高効率・高品質化」のキックオフミーティングを開催しました。

本事業は、山梨県が誇るブドウ「シャインマスカット」の栽培における開つくり、補給、収穫作業の工程の効率化を図るための人工知能（AI）技術、それを搭載したスマートグラス・栽培支援ロボットの開発により、ブドウ栽培に係わる作業の削減とシャインマスカットの高品質化を目指す。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センター（生研支援センター）の支援を受け実施するものです。

教育 研究

2022.6.20 Mon.

千葉工業大学との
包括的連携協定を締結



令和4年6月20日（月）、本学と千葉工業大学は、包括的連携協定を締結し、連携を深めることによって相互に発展し、我が国の学術及び産業の進展と人材の育成を目指すことを目的とした包括的連携協定を締結しました。

島田副学長、千葉工業大学瀬戸原理事長、松井学典学長が協定書に署名。

島田学長は「両大学の教育研究水準を向上させ、社会が求める課題解決、さらには山梨県をはじめ地域の発展と、それを支える科学技術の進展に寄与するものと確信している」と挨拶。松井学長から「私立大学・国立大学の枠組みにとらわれず、人材育成、教育研究を積極的に推進していきたい」と挨拶をいただきました。

教育 研究

2022.6.15 Wed.

高度生殖補助技術センター開所式
及びキックオフシンポジウムを開催



本学では、令和4年4月に高度生殖補助技術センターを生命環境学部に設置したことに伴い、開所式及びキックオフシンポジウムを開催しました。

6月15日（水）に開催した開所式では、島田副学長が「高度な知識と技術を持つ医専士を育成するとともに、県内定着に向け、山梨県とともに取り組んでいきたい」と挨拶しました。また、翌16日（木）のキックオフシンポジウムでは、生殖医療に従事されている菅井剛氏（医師）、飯塚純江氏（医専士）並びに日本臨床工撮リオリオソド学会理事長などを歴任された津津原氏（医専士）による講演が行われました。

グローバル 教育

2022.4 ~

ウクライナの学生への支援!

遠隔授業の配信開始 (2022年4月~)

- ・国立航空宇宙大学など、ハルキウ州の12大学を対象
- ・13科目を提供 (人口知能(AI)、クリーンエネルギー等)
- ・受講登録550名超



医学部にて留学支援開始 (2022年4月~)

- ・大学宿舍の無償提供
- ・学業に専念できる環境の提供 (図書館利用、日本語サポート)
- ・実習への参加
- ・卒業試験及び国家試験対策支援



オンライン履修コース修了式実施 (2022年7月19日)

5大学22名に修了証書授与



山梨大学へ修了した学生、ウクライナからの留学生、学生、修了証書授与

医学部・附属病院

2022.3.3 Thu.

山梨大学シミックプラザ竣工式を挙げる!



令和4年3月3日(木)、医学部キャンパスにおいて、「山梨大学シミックプラザ」竣工式を挙行いたしました。山梨大学シミックプラザは、シミックホールディングス株式会社のご協力をいただき、長年の課題であった学生・教職員のための福利厚生施設、教育・研究・診療における拠点スペースとして、山梨大学医学部キャンパス講義棟併側に建設されました。

本施設は、伊筋コンクリート造地上2階建てで、グループ学習やラーニング commons の学習のほか、学生が専食や休憩をとるスペースとして使用し、セミナーや発表会等も開催可能な「プレゼンテーションホール」を完備しております。

社会貢献・地域連携

2021.12.16 Thu.

一般社団法人 FCyFINE PLUS 設立



令和3年12月16日(木)、山梨県防災新館オープンスクエアにおいて、「一般社団法人 FCyFINE PLUS 設立発表式」が挙行されました。

法人は県内企業3社が11月30日に設立し、現在約20団体・個人が会員となり、本学はアドバイザーとなっています。

道徳の企業・団体により多くの顔を出した課題を解決し、水素・燃料電池分野の社会環境づくりをより民間に近い部門で推進する「水素社会実現をリード」していく役割の必要性から、本法人の設立に至りました。

教育 研究

2021.10.6 Wed.

メカトロニクス工学科の学生らが案内ロボット「さとっちゃん」を開発



ロボット「さとっちゃん」の名前は、大村博士の幼少期の愛称が由来になっています。大村博士に命名していただきました。

本学工学部メカトロニクス工学科の学生らが人工知能(AI)搭載のロボット「さとっちゃん」を開発しました。このロボットは、ノーベル医学・生理学賞を受賞した本学卒業生で本学特別栄誉博士である大村哲博士の功績をより深く知ってもらおうと、「大村哲記念学術館」の案内ロボットとして制作したものです。フレームの制作や移動の制御、音声認識や画像認識などセンサー処理をメカトロニクス工学科の学生らが技術を駆使して制作し、ロボットの外装は本学教育学部芸術体育教育コースの学生がデザインしました。

社会貢献・地域連携 研究

2021.5.31 Mon.

日本初・山梨発! 燃料電池電動アシスト自転車試作機完成披露式を挙げる



令和3年5月31日(月)、本学燃料電池ナノ材料研究センターにおいて、「燃料電池電動アシスト自転車試作機完成披露式」を挙行しました。

国産の燃料電池を電源とする電動アシスト自転車を日本で初めて制作したもので、本学・山梨県・民間企業との協働で行っている。「水素社会に向けた『やまなし燃料電池バレー』」の創成の一環として実施されました。

今回試作された電動アシスト自転車は1.1リットルの水素ボンベ1本で約100kmの走行が可能で、一般的なバッテリー式のものに比べて走行距離が長く、非常用電源としても利用可能なことが特徴です。

教育

2021.3.11 Wed.

デジタルを活用した大学教育の高度化 教育データの集積と有効活用による学生個々の学び支援

文部科学省デジタル活用教育高度化事業に採択



大学・高等専門学校においてデジタル技術を積極的に取り入れ、「学修者本位の教育の実現」、「学びの質の向上」に向けて環境を整備。

教育情報システム基盤から取得されるビッグデータに基づき、学生の学習行動の自動分析とその結果に依拠した学習情報の提供を行う「学びのソムリエAI」による学びの個別最適化を目指す。

- ・(R4年度) 大学教育センターを大学教育・DX推進センターに改組
- ・(R5年度) 教学DX・教学IR推進の司令塔機能を強化
- ・センターに専任教員2名(教授・准教授)を配置

社会貢献・地域連携 教育

2021.2.1 Mon.

山梨大学 地域人材養成センターを設立



令和3年2月1日(月)、「地域人材養成センター」を新たに設立しました。

本センターは、文部科学省「令和2年度 国立大学改革強化推進補助金(国立大学経営改革促進事業)」の支援を受け、学内の人材養成に係る地域連携事業及び大学間連携事業の関係部署を集約し、機能強化を図るものです。COCやCOC+事業などで培った地域志向型教育や女性活躍推進事業、リカレント教育事業を担当する「地域未来創造室」と地域や大学との連携の中核を担い、その効果を地域の高専教育機関に波及させる「地域大学連携推進室」から構成されています。

教育 社会貢献・地域連携

2020.10.1 Thu.

やまなし幼児教育センター開所



令和2年10月1日(木)、甲府キャンパスにおいて、やまなし幼児教育センター開所式を挙行しました。

本センターは、山梨県教育委員会が本学や山梨県立大学等の機関と連携し、社会の変化や幼児教育の現状・課題等を明らかにし、県内の幼児教育の一層の充実と振興を図るため、本学甲府キャンパス1号館1階に設置されたものです。

山梨県における幼児教育推進の拠点として、幼児教育アドバイザーの派遣や研修会の開催などによる「質の高い幼児教育の推進」「幼児小連携」「幼児教育の調査・研究」を行う予定。本学と(一社)大学アライアンスややまなしは、これまで以上に本県の教育に貢献いたします。

社会貢献・地域連携

2020.12.16 Wed.

水晶庫「登録有形文化財」登録プレートの除幕式



令和2年12月16日（水）、甲府キャンパス水晶庫で「登録有形文化財」登録プレートの除幕式を行いました。

令和2年8月17日に「山梨大学水晶庫」として登録有形文化財(建築物)に登録され(登録番号：19-0148)、これを記念した実施された。

水晶庫は、2015年（平成27年）ノーベル医学・生理学賞を受賞された木村研義生・大村 博 博士の功績を顕彰するために2018年（平成30年）7月に建設した「大村研義記念学術館」の事に奥室により移設し現在に至っています。

社会貢献・地域連携

2020.3.19 Tue.

山梨大学水晶庫の登録有形文化財への登録

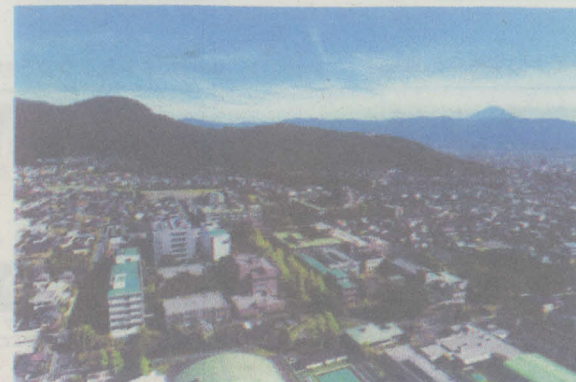


昭和2年に建築された水晶庫。令和2年3月に文化審議会が文化庁に答申しました。

- ・令和2年3月19日に国の文化審議会が文化庁へ答申
- ・令和2年8月17日登録（第19-0055号）

水晶庫は、貴重な水漏損を源正に管理・保護するため、昭和2年に鉄筋コンクリート造で建築され、平成30年に基礎を補強後、約40mの受変を行い、現在の位置に移設しました。

全体として水晶をイメージした設計が施されており、登録基準の一つである「造形の規範となっているもの」として登録手続きを行ったものです。



ご清聴ありがとうございました